



西日本FH 西日本フィナンシャルホールディングス



西日本シティ銀行



長崎銀行

統合報告書 2022

(ディスクロージャー誌 本編)



目次

▶ グループ経営理念 ◀

私たちは、高い志と誇りを持って
時代の変化に適応し、
お客さまとともに成長する
総合力No.1の地域金融グループを目指します。

▶ グループブランドスローガン ◀

ココロがある。コタエがある。

▶ シンボルマーク ◀



シンボルマークに込めた意味

このシンボルマークは、未来を拓くエネルギーである「太陽」と、躍動感あふれる「羽」をモチーフとしています。

放射状に伸びる羽は、無限に広がる未来を表現しています。さらに、淡いオレンジから深いオレンジへと変化を重ねる姿には、西日本FHグループを未来に向けて進化・変革させていこうという決意が込められています。

編集方針

西日本FHについて 3

グループ沿革	3
グループ概要	5
西日本FHグループの強み	7
営業基盤の特長	9
財務ハイライト/非財務ハイライト	11

成長戦略 13

トップメッセージ	13
価値創造プロセス・中期経営計画	19
成長戦略① グループ総合力の強化	21
成長戦略② 人財戦略	23
成長戦略③ デジタル戦略	27
特集 業務革新	31
成長戦略④ SDGs/ESGへの取り組み	33

経営基盤 47

コーポレート・ガバナンス	47
リスク管理	53
コンプライアンス	57
お客さまの満足度向上に向けた取り組み	59
株主・投資家とのコミュニケーション	61
有価証券運用・政策保有株式の状況	63

財務・企業情報 65

財務情報	65
企業情報	69

西日本フィナンシャルホールディングス(以下、西日本FH)は、このたび、投資家を中心としたステークホルダーの皆さまに、西日本FHグループの持続的成長や価値創造に向けた取り組みをご理解いただくため、「統合報告書2022(ディスクロージャー誌 本編)」を作成いたしました。本報告書は、国際統合報告評議会(IIRC)が2013年12月に公表した「国際統合報告フレームワーク」を参考に、財務情報と経営理念・経営計画・ESG情報(環境・社会・ガバナンス)などの非財務情報を統合的に編集しています。

なお、本報告書は、銀行法第21条及び第52条の29に基づくディスクロージャー資料を兼ねています。ディスクロージャー資料としてご利用の際は、本報告書及び「統合報告書2022(ディスクロージャー誌 資料編)」を併せてご参照ください。

- 報告対象
期間:2021年4月~2022年3月(一部、2022年4月以降の情報を含まず)
範囲:西日本FH及び子会社・関連会社
- 発行時期
2022年7月

見直しに関するご注意

本報告書には将来の業績に係る記述が含まれていますが、これらの記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化等により異なる可能性があることにご留意ください。

※計数につきましては、原則として単位未満を切り捨てて表示しています。

グループ沿革

西日本FHグループの中核を成す西日本シティ銀行の原点は、「中小企業専門金融機関」です。旧2行で培われた「中小企業育成のDNA」を脈々と継承し、不良債権問題等のさまざまな難題を乗り越えながら、これまで数多くの地元中小企業とともに成長の歩を進めてきました。

グループ総合金融力のさらなる強化に向け、2016年に持株会社体制へ移行。銀行・カード会社・証券会社等、多様かつ特長のある子会社を有する総合金融グループを形成しています。

2004 西日本シティ銀行誕生

2004年10月、経営基盤のさらなる強化を図るため、西日本銀行と福岡シティ銀行が合併し、西日本シティ銀行が誕生しました。

両行の子会社・関連会社については、各社の特長・強みを最大限に活かすべく、業務の再編や統合を進め、グループ総合金融力の強化に取り組みました。

2016 西日本FH誕生・持株会社体制への移行

2016年10月、グループ内の結束・連携を一層強化し、将来のさまざまな環境変化やリスクに適切に対応するため、西日本FHを頂点とした持株会社体制へと移行し、新たな経営管理態勢を構築しました。

本持株会社体制の下、「地域経済へのさらなる貢献」と「グループ企業価値の最大化」に取り組んでいます。

2020 中期経営計画「飛翔2023～地域の元気を創造する～」スタート

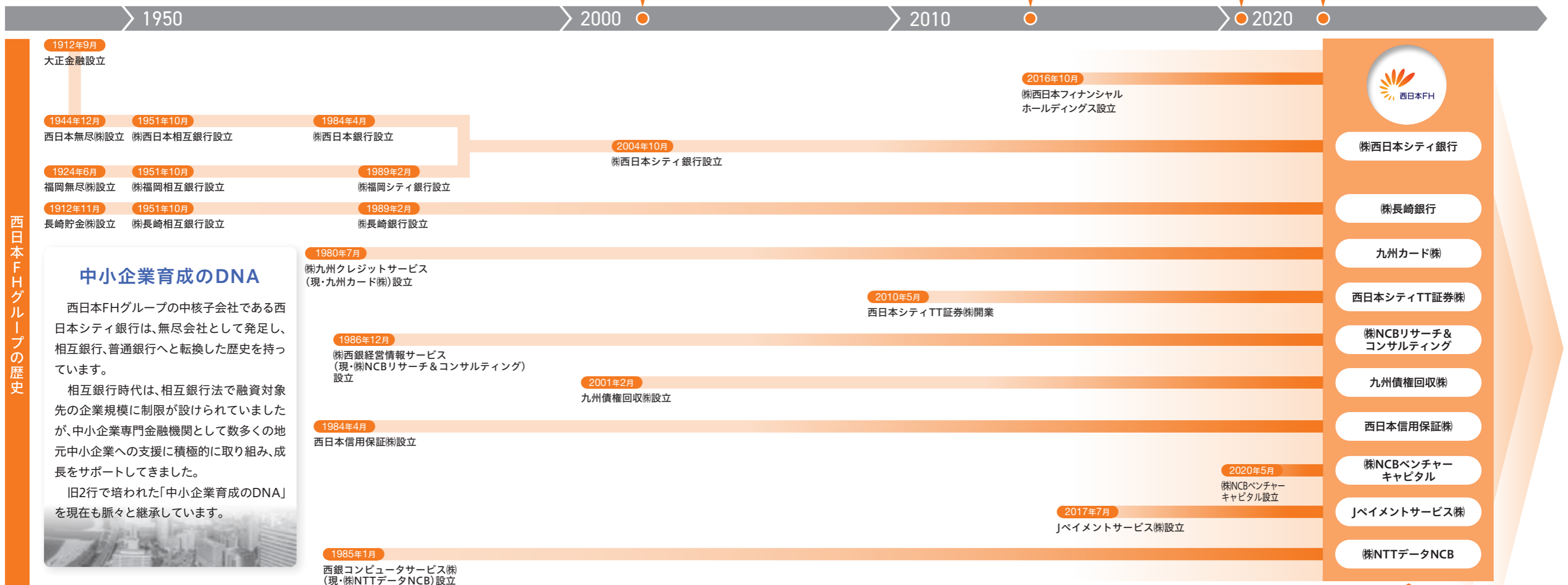
2020年4月、2023年3月までの3年間を計画期間とする中期経営計画「飛翔2023～地域の元気を創造する～」をスタートさせました。

本中計では、3つの基本戦略「1.地域の発展をリードするグループ総合力の発揮」「2.お客さま起点の“One to Oneソリューション”の提供」「3.持続的な成長に向けたリソース革新」を展開し、「地域の元気を創造する」ことを目指しています。

2022 グループ総合力の強化

2022年10月を目前に、株式会社シティアスコムと株式会社九州リースサービスをグループ会社化することとしました。

新たにデジタル化・DXソリューションとリースの二つの機能がグループに加わることによって、西日本FHグループは、金融にとどまらない多様なソリューションを提供できる地域金融グループへの進化を目指します。



西日本FHグループの歴史

西日本FHについて

成長戦略

経営基盤

財務・企業情報

中小企業育成のDNA

西日本FHグループの中核子会社である西日本シティ銀行は、無尽会社として発足し、相互銀行、普通銀行へと転換した歴史を持っています。

相互銀行時代は、相互銀行法で融資対象先の企業規模に制限が設けられていましたが、中小企業専門金融機関として数多くの地元中小企業への支援に積極的に取り組み、成長をサポートしてきました。

旧2行で培われた「中小企業育成のDNA」を現在も脈々と継承しています。

親密企業の歴史

- 1949年9月 大熊印刷(株) (現・ダイヤモンド秀巧社印刷(株))設立
- 1951年4月 株式会社 (株)有恒社 (現・西日本ユウコー商事(株))設立
- 1952年1月 西日本ビル(株)設立
- 1961年6月 西日本不動産開発(株)設立
- 1969年7月 福岡エフエム音楽放送(株) (現・エフエム福岡(株))設立
- 1971年1月 株式会社 (株)アスコム (現・株式会社シティアスコム)設立
- 1974年11月 ユニオンリース(株) (現・株式会社九州リースサービス)設立
- 1974年12月 九州総合信用(株)設立
- 1978年12月 株式会社 (株)西日本書庫センター設立

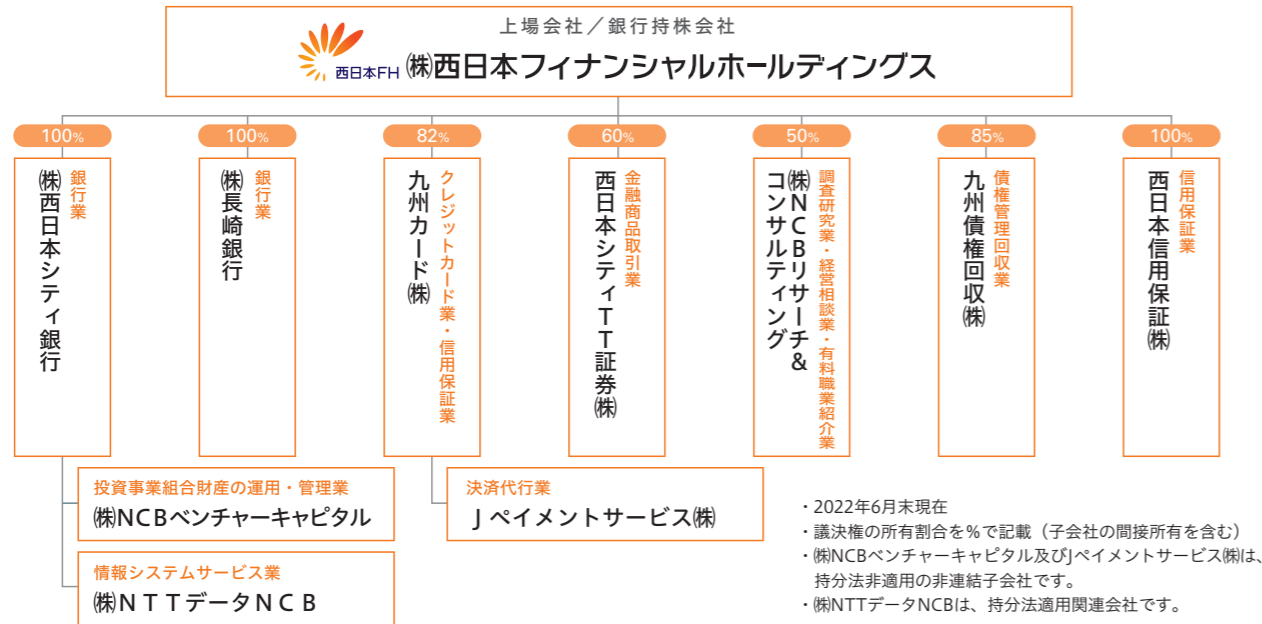
西日本FHグループは、多様なビジネスを営む有力な企業群と歴史的に親密なつながりを持っています。連結の子会社・関連会社に加え、そうした親密企業との連携を強化することにより、お客さまの幅広いニーズに対応できる態勢を構築しています。

- 株式会社シティアスコム
2022年10月に連結子会社へ
- 株式会社九州リースサービス
2022年10月に持分法適用会社へ

グループ概要

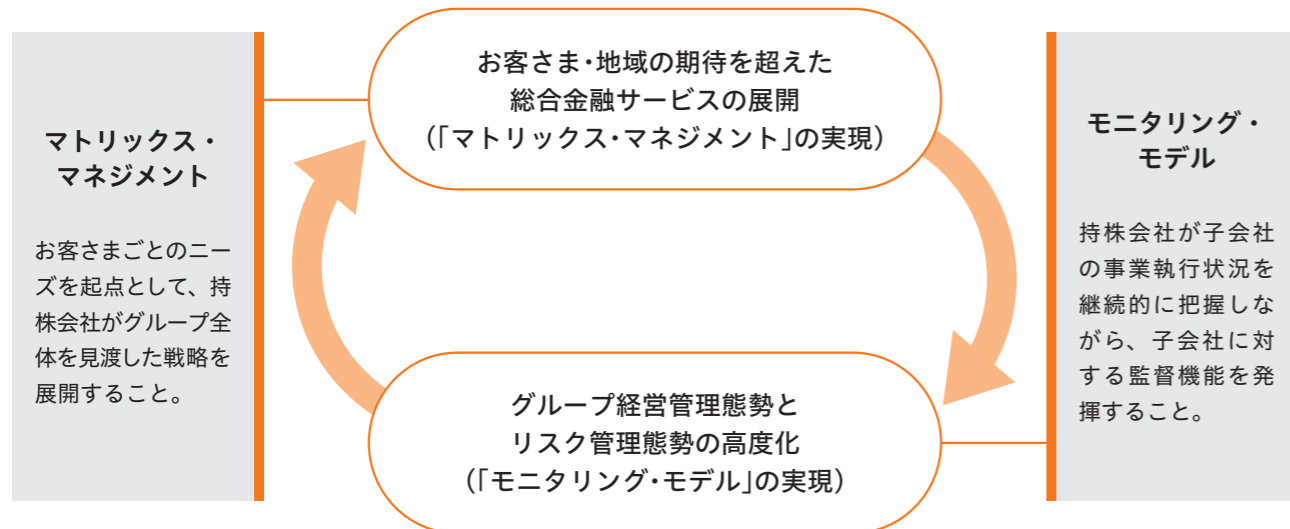
グループストラクチャー

西日本FHグループは、持株会社である西日本FHが各社を横断的に俯瞰しながら、グループの司令塔としてその舵取りを行う“各社並列型”のストラクチャーを採用しています。グループ各社が有する特長・強みを、持株会社体制のもとで最大限発揮・活用することにより、「地域経済へのさらなる貢献」と「グループ企業価値の最大化」を目指しています。

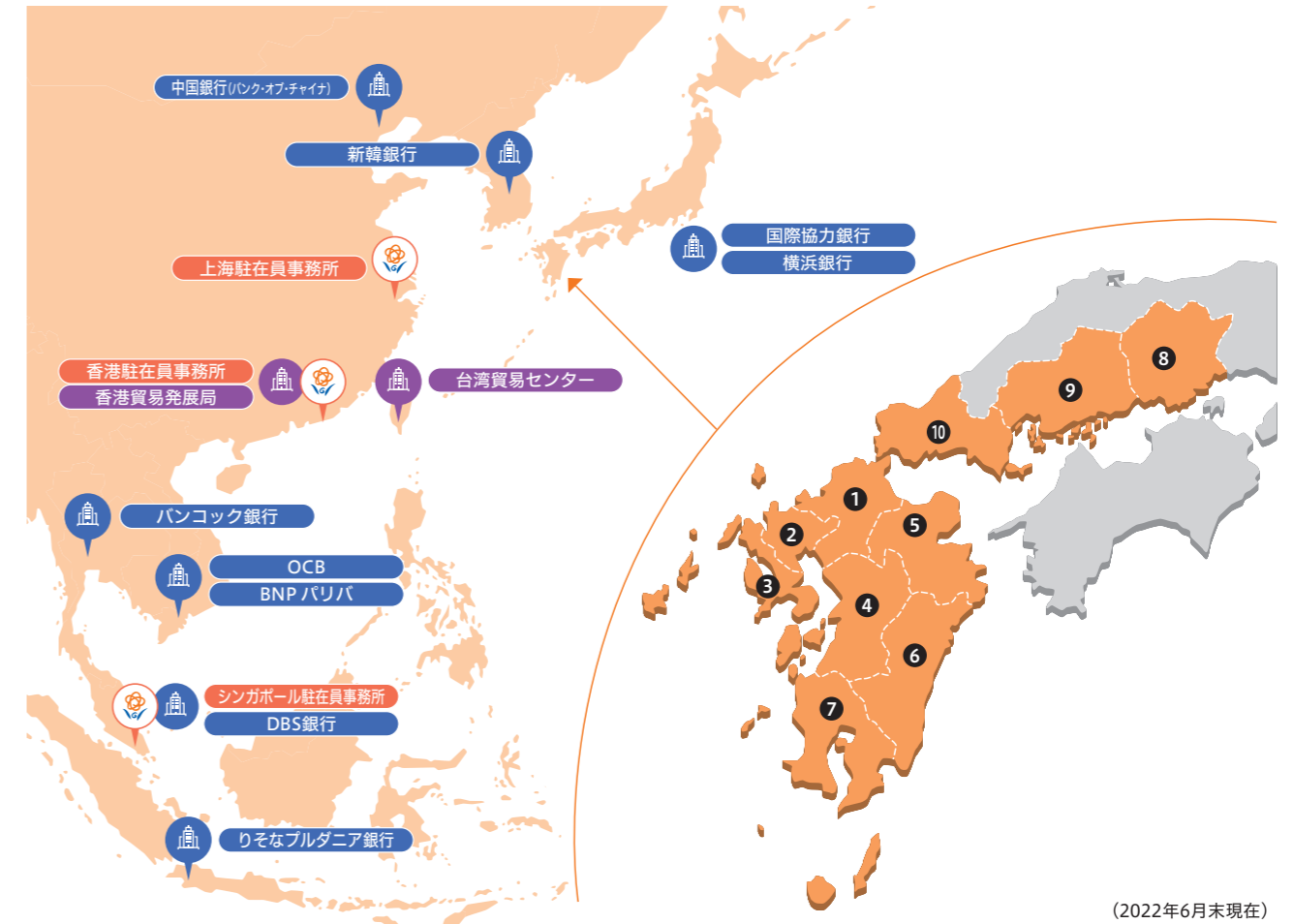


グループ経営戦略

持株会社体制のもと、「お客さま・地域の期待を超えた総合金融サービスの展開（「マトリックス・マネジメント」の実現）」と「グループ経営管理態勢とリスク管理態勢の高度化（「モニタリング・モデル」の実現）」の2つのグループ経営戦略を展開します。



ネットワーク



国内拠点

西日本シティ銀行……159か店※ 長崎銀行……23か店 西日本シティTT証券……13拠点

※インターネット支店・プランチンプランチ実施店等を除く

1 福岡県 西日本シティ銀行 134か店 西日本シティTT証券 10拠点	4 熊本県 西日本シティ銀行 2か店 長崎銀行 2か店 西日本シティTT証券 1拠点	7 鹿児島県 西日本シティ銀行 1か店 西日本シティTT証券 1拠点	(その他)
2 佐賀県 西日本シティ銀行 4か店 長崎銀行 2か店	5 大分県 西日本シティ銀行 5か店	8 岡山県 西日本シティ銀行 1か店	東京都 西日本シティ銀行 1か店
3 長崎県 西日本シティ銀行 3か店 長崎銀行 19か店	6 宮崎県 西日本シティ銀行 3か店 西日本シティTT証券 1拠点	9 広島県 西日本シティ銀行 2か店	大阪府 西日本シティ銀行 1か店
		10 山口県 西日本シティ銀行 2か店	

海外拠点・提携機関

西日本シティ銀行 ……3駐在員事務所
提携金融機関 ……9機関
提携機関 ……2機関

西日本FHグループの強み

確固たる取引基盤と お客さまとの信頼関係

■ **メイン取引先数** (2022年3月末現在)

西日本シティ銀行

22,773社

西日本FHグループの主要子会社である西日本シティ銀行は、2004年10月の設立以降、規模を拡大し、総資産12兆8,217億円、預金等(預金+譲渡性預金)残高9兆5,919億円、貸出金残高8兆2,360億円、さらにはメイン取引先数22,773社と確固たる取引基盤を有しています(2022年3月末現在)。

また、九州カードは、国際クレジットブランドを機軸としたフルブランド展開を行い、会員数942千人、加盟店数60千店、カード取扱高3,939億円と、銀行系カード会社でトップクラスの取引基盤を有しています(2022年3月末現在、カード取扱高は2021年度)。

中小企業育成のDNA

■ **創業・第二創業支援先数・融資金額** (2021年度)

西日本シティ銀行 **3,422先・835億円**

■ **「経営者賞」表彰者数** (2022年4月末現在)

累計 177名

西日本FHグループの原点は中小企業専門金融機関であり、「中小企業育成のDNA」を脈々と継承しています。西日本シティ銀行は、地域の産業・雇用の創出に向けた創業支援に積極的に取り組んでいます。創業間もない企業をはじめとする多くの地元中小企業に寄り添い、きめ細かにサポートしています。2021年度における創業・第二創業支援先数は3,422先、融資金額は835億円でした。

また、1973年より、公益財団法人・経営者顕彰財団を通じて、地域経済の発展に顕著な実績を挙げた経営者を対象に「経営者賞」を授与しており、これまでに177名を表彰しています。

地域密着型金融

■ **地域別貸出金比率**

九州 福岡県
西日本シティ銀行 **87.8% 78.0%**

■ **中小企業等貸出金比率**

西日本シティ銀行 **78.7%**

(2022年3月末現在、財務省向け貸出を除く)

西日本FHグループは、「地域の発展なくして西日本FHグループの発展なし」との信念のもと、地元企業・産業の育成支援に積極的に取り組んでいます。

西日本シティ銀行は、貸出先の約9割が九州、約8割が福岡県であり、地元重視の営業展開を行っています。また、貸出先の約8割が中小企業・個人であり、それらのお客さまの事業内容や成長可能性を適切に評価し、必要な解決策を提案・サポートする事業性評価に積極的に取り組んでいます。

国内外の広域ネットワーク

■ **国内**

西日本シティ銀行 **159**か店*
長崎銀行 **23**か店
西日本シティTT証券 **13**拠点

■ **海外**

西日本シティ銀行 **3** 駐在員事務所
提携金融機関 **9** 機関
提携機関 **2** 機関

*インターネット支店・プランチンプランチ実施店等を除く (2022年6月末現在)

「西日本シティ銀行アプリ」ダウンロード数 (2022年3月末現在) **累計 115**万件

西日本FHグループは、国内外にわたる広範なネットワークを構築しています。

国内では、九州・福岡を中心に銀行・証券会社の営業拠点網を展開し、リアルチャネルならではの「ヒューマンタッチ」の営業を展開しています。同時に、個人のお客さまにはスマホアプリ「西日本シティ銀行アプリ」、法人のお客さまには法人版プラットフォーム「NCBビジネスステーション」を中心に、デジタルチャネルの機能強化による、お客さまの利便性向上にも注力しています。

海外では、西日本シティ銀行の駐在員事務所3拠点(上海・香港・シンガポール)の活用や、現地の提携機関、専門家などとの連携により、お取引先のアジアを中心とした海外ビジネスに関するニーズにお応えしています。

グループ総合金融サービスの提供力

西日本FHグループは、グループ総合金融力のさらなる強化に向け、2016年10月、持株会社体制へと移行しました。傘下に、銀行・証券会社・カード会社など多様かつ特長のある子会社7社を並列に並べた総合金融グループを形成しています。グループ各社の事業活動を一体的に運用するマトリックス・マネジメントの実践により、幅広い総合金融サービスを提供する体制としています。

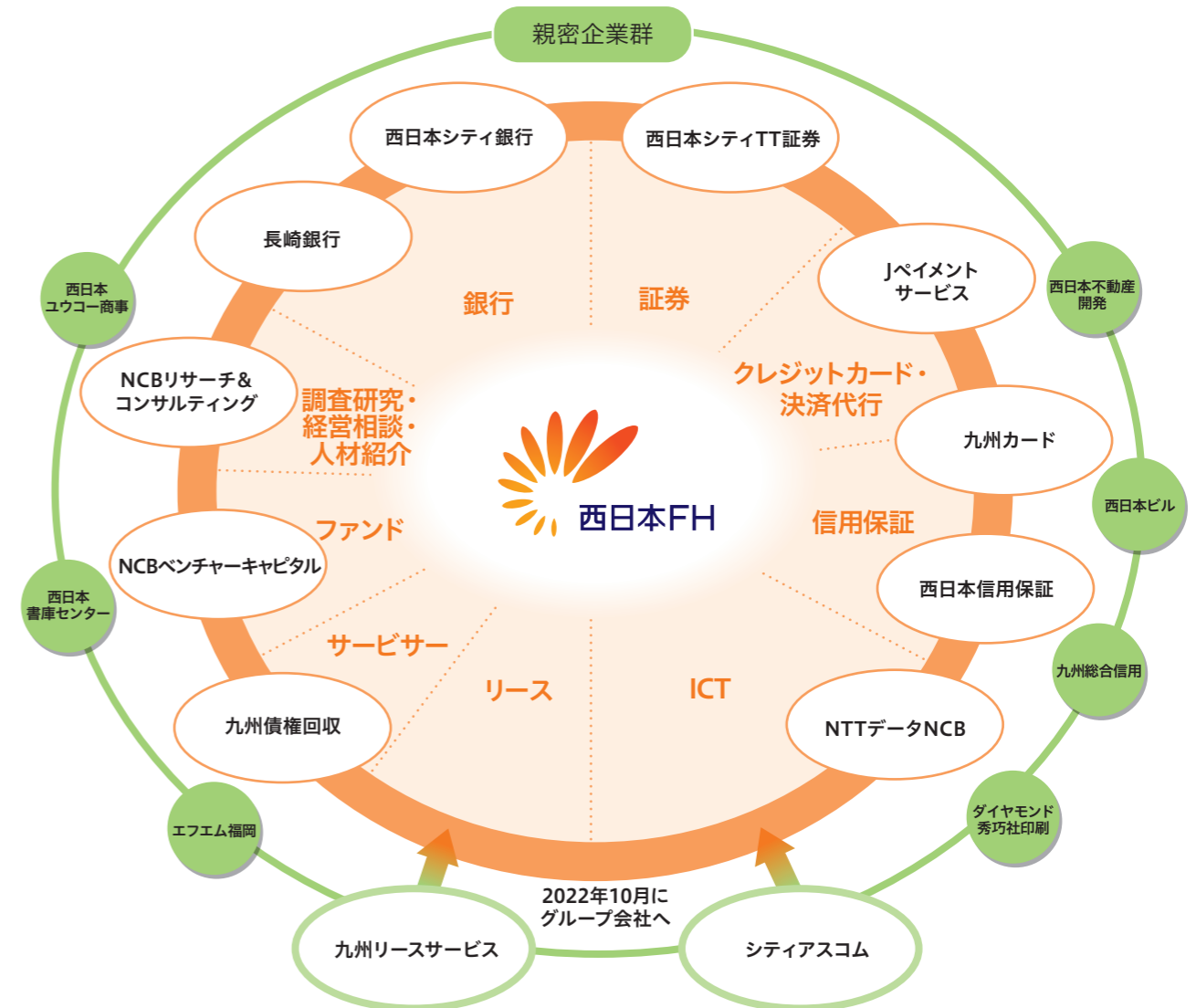
2022年10月には、関係当局の認可等を得られることを前提に、九州内でトップクラスのICT企業である(株)シティアスコムと九州内で首位の事業規模を誇るリース会社である(株)九州リースサービスが西日本FHグループに加わる予定です。デジタル化・DXソリューションとリースの二つの機能が新たに加わることで、西日本FHグループは金融に留まらない多様なソリューション機能を有する地域金融グループへと進化します。

親密企業・外部との協働

西日本FHグループは、多様なビジネスを営む有力な企業群と親密なつながりを持っており、グループ会社に加えて、そうした親密会社との連携により、お客さまの幅広いニーズに対応できる態勢を構築しています。

親密企業には、左記の(株)シティアスコム及び(株)九州リースサービスのほか、九州トップクラスの金融機関保険代理店である西日本ユウコー商事(株)などがあります。

また、多様かつ先進的なサービスの提供や地域活性化の実現に向けて、外部企業、地方公共団体、大学等とのオープンイノベティブな提携・連携にも積極的に取り組んでいます。



営業基盤の特長 ～地元九州・福岡のポテンシャル～

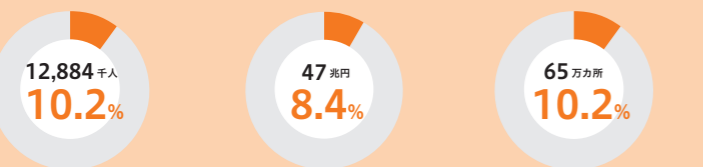
西日本FHグループの主要地盤である九州・福岡は、経済力に富み、大型再開発プロジェクトが進むなど、恵まれたマーケット環境にあります。

九州

九州は日本の「1割経済」

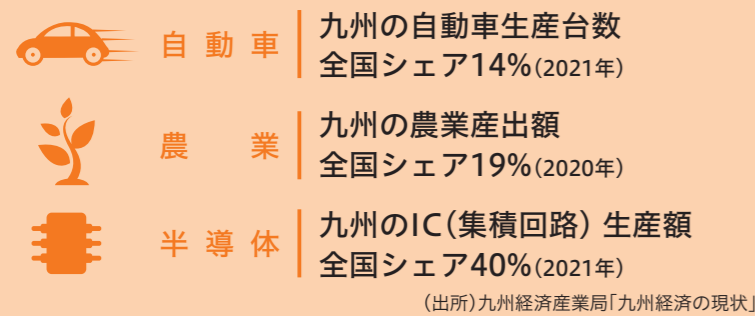
3大都市圏に次ぐ経済規模(全国シェア)

人口(2021年) 域内総生産(名目)(2018年) 事業所数(2019年)



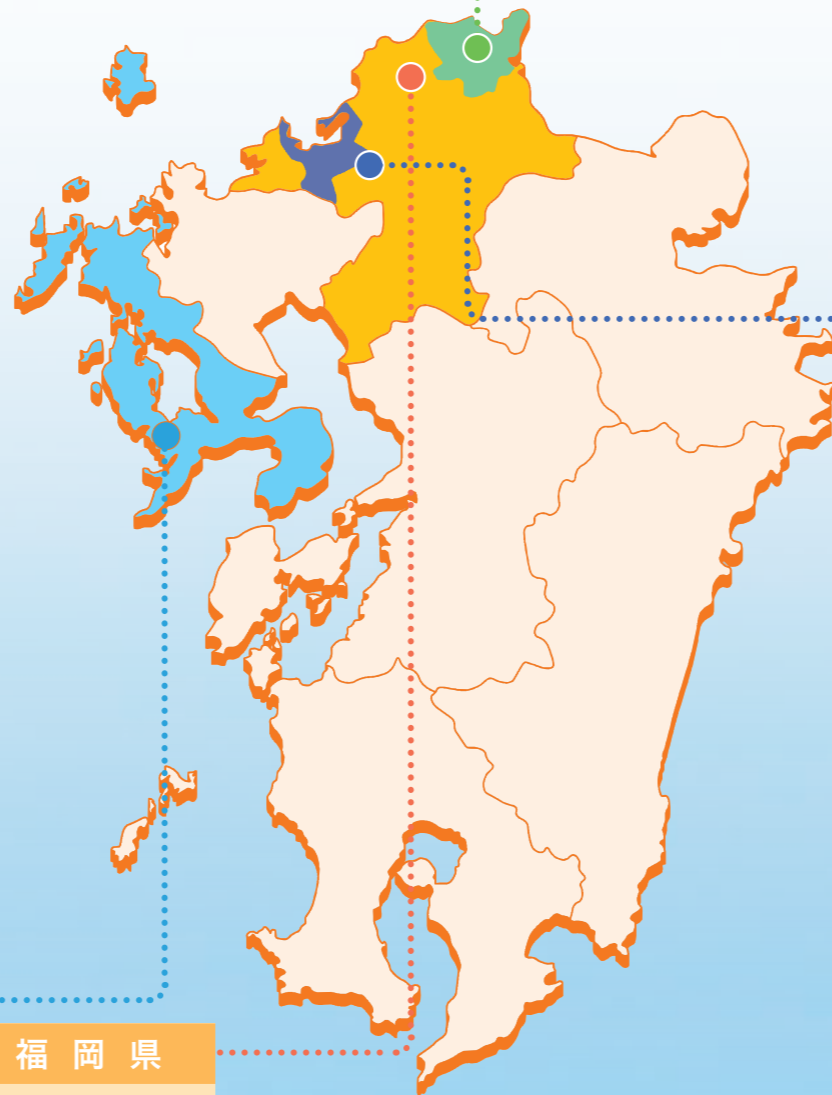
九州は成長著しいアジア諸国と密接な相互関係

九州には多様な産業が集積



半導体関連設備投資の活発化

世界的半導体メーカーの台湾積体回路製造(TSMC)の熊本県進出をはじめ、半導体増産に向けた大型設備投資が九州において活発化



北九州市



北九州市の「産業と環境の両立」は国の内外で高い評価

OECDが「SDGsモデル都市」に指定(2018年)
国が「SDGs未来都市」、「環境未来都市」に指定(2018年)
第1回「日経自治体DXアワード」で全国唯一の大賞受賞(部門賞「デジタル人材育成部門」「行政業務/サービス変革部門」「地域産業デジタル化推進部門」を受賞)(2022年)

北九州市との「SDGs達成に向けた協力に関する協定」の締結

西日本シティ銀行は、2020年1月、北九州市と「SDGsの達成」という共通の目標のもと、地域企業のSDGsの取組みをサポートするため、「SDGs達成に向けた協力に関する協定」を締結しました。

福岡市



福岡市の人口増加率(4.8%)は政令指定都市でトップ

※2015-2020年の増加率 (出所)総務省統計局「令和2年国勢調査」



福岡市には大学等の教育機関が集積

福岡市の人口10万人あたりの学校数は全国第1位(2015年)
※政令指定都市と東京都区部の21大都市における学校数(大学(院)、短大・高専・専修学校)の比較 (出所)福岡市「Fukuoka Facts」



福岡市の開業率(7.2%)は21大都市地域でトップ

※2020年度の開業率。全国平均5.1% (出所)福岡市経済観光文化局「福岡市経済の概況」

福岡市には大型都市再開発プロジェクトが林立

代表的なプロジェクト	建設投資効果	経済波及効果/年
博多コネクティッド	2,600億円	5,000億円
天神ビッグバン	2,900億円	8,500億円

(出所)福岡市

天神ビッグバン第1号案件「天神ビジネスセンター」へ移転オープン

西日本FHグループは、2021年11月、天神ビッグバン規制緩和第1号として完成した「天神ビジネスセンター」に、以下の拠点を移転オープンしました。

西日本シティ銀行 天神支店・天神北支店・NCB アルファ天神出張所
西日本シティTT証券 本社・天神支店



長崎県

長崎県には豊富な観光資源

ユネスコの世界文化遺産に登録
・「明治日本の産業革命遺産」(2015年)
・「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」(2018年)

西九州新幹線(武雄温泉～長崎間)が2022年開通予定

福岡県

福岡県のGDPは九州の4割超

九州経済を福岡県が牽引

九州の中小企業37万社のうち、**福岡県の中小企業は13万社**(2016年)

(出所)中小企業庁「2022年度版中小企業白書」

財務ハイライト／非財務ハイライト

財務ハイライト



非財務ハイライト

